

令和7年度

甲府一高進路だより

入学記念号（令和7年4月9日）

ご入学おめでとうございます。ようこそ甲府第一高校へ。

真新しい制服に身を包み、期待に胸ふくらませて校門をくぐった生徒の皆さん、

本日から一高生として新たな日々が始まります。皆さんにとっては、人生の中で最初の大きな節目といってもよいかもしれません。先日在校生には、この年度の節目を竹の節に例え、竹は節があるからこそ大きく成長することができる。年度の節目となる今、自分を振り返り新たな目標を立てることで、更なる成長を期待していると話をしました。高校入学という節目を迎えた皆さんがこれから、大きく成長できるよう職員一同でバックアップいたします。



【未来に向けて今から実践してほしいこと】

皆さんはいずれ大人として社会を担っていきます。自分はどのような形で社会と関わるのか？自分の得意な面を生かしてでしょうか？また、自分にとってやりがいのある分野でしょうか？あるいは他の人はやりたがらないが、世の中で大切であると思う分野でしょうか？これから始まる高校の3年間は、そのための「土台」を作る大切な期間となります。将来の夢や希望を描きながらたくさんのことを学び、様々なことを経験して、人として大きく成長し自分を磨いていってください。本校の目指す生徒像は「世界に漕ぎ出す知の冒険者たれ」です。現在は、自然災害の頻発や戦争といった危機が世界に影を落としています。また、AIやメタバースに象徴される科学技術の進化のスピードが増しています。こうした社会の変化は未来に大きな影響を及ぼします。先が見通せず不安になることもあるかと思いますが、今は自分の未来を実現するために何が必要なのかを考え、学びを積み重ねていくことや課題を一つ一つ乗り越えていくことで次への一歩が見えてきます。

そのために具体的に大切なことを以下に挙げます。実践につなげてください。

① 生活リズムを整える

授業がある平日はもちろんですが、休日、長期休暇中でも「生活リズムを整える」ことが何よりも大切です。まずは毎朝決まった時刻に自分で起床することを心がけてください。その上で、食事をきちんととること、就寝する時刻などを大きく乱さないことを大事にしてください。

② 授業を大切に 英語・数学・国語が中心の学習

様々な教科の基本となるのは英数国の3教科です。特に1学年で学習する基本的な事項をどれだけ高いレベルで身につけられるかが進路目標実現に向けて大きく影響します。授業を中心にさらに自学での予習復習により、深く理解し定着できるようしっかりと準備をしてください。

③ 毎日必ず机に向かう

自分を伸ばすために最も重要なことは良い習慣を身につけることです。特に学習の開始時刻を毎日一定にできることが理想です。人間は、やる気があるから行動するわけではなく、行動を続けることでやる気生まれるものだそうです。学習習慣を生活リズムにきちんと組み込んでください。

④ 将来の進路について積極的に考える

世の中には本当にたくさんの仕事があり、多くの学問分野があります。自分はまだ将来についてよくわからないと思っている人もいるでしょう。焦ることはありません。高校で友達をつくり、授業や部活動などを通して今まで知らなかった考え方や価値観に触れてください。新しい経験の中で自ら気づかなかった関心や長所を発見することがあります。ご家族とも話をしていろいろと教えてもらってください。

私たち教職員、特に進路指導係は、それらの教育活動の企画、運営等を中心となって行う担当です。分からないことや不安なことがあったら遠慮なく相談してください。

1年間よろしくお願いします。

【保護者の皆様へ】

この度は、ご入学おめでとうございます。本校での高校生活の中で、それぞれの生徒が最大限の力を蓄えて、将来に向かい大きく飛躍してくれることを願っています。校是の一つに「賛天地之化育」(てんちのかいくをたすく)があります。「天地が万物を生成発育させる働きを賛助・促進する」という意味です。本校での高校生活が、生徒自身を生成発育させる助けとなるよう、職員一同でバックアップいたします。ご家庭におかれましても、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

まずは高校生活に慣れるための4点固定(起床時刻・帰宅時刻・家庭学習開始時刻・就寝時刻)のリズム作りにご協力ください。生活のリズムを整え、学習習慣を定着させることで、進路実現に向けての土台ができていきます。

また入学したばかりですが、卒業後の進路目標をともに考えてください。保護者向けの進路研修会を5月29日(木)に計画していますので、ぜひご参加ください。進路学習の根幹は「自分は何者で、どのようなことに興味・関心があり、どのようなことに喜びを見いだし、何を学び、どんな仕事に就きたいのか」ということを、様々な情報を集め、多くの本を読み、たくさんの刺激を受け、自分自身と深く向き合い、自問自答しながら深めていく過程であり、その延長線上にこそ進路実現があるはずです。その道を進むのはもちろん



生徒本人ですが、保護者の皆様には「こどもの最大の支援者」として、粘り強く温かいご指導・ご助言を頂ければ幸いです。